

乙植木分団を激励



団長・副団長・団員へ激励の言葉

9月4日の福岡県消防操法大会に向けて訓練に励む須恵町消防団乙植木分団を激励に行きました。町大会、地区大会を制し、県大会に臨む団員一同は、この猛暑の中、4カ月もの長きに渡り厳しい訓練を重ねられています。団員各位がそれぞれの思いを胸に秘め、日々の訓練に励み、伝統や誇りを背負って挑む大会において、素晴らしい操法を披露されることを祈念いたします。町民の生命と財産を守るため、日夜活躍されている消防団員の皆さまに深く感謝いたします。

広域的な湧水対策を調査

視察の目的

福岡都市圏に供給されている安全安心な水道水が、どのように作られているかを知るために海水淡水化センターの視察をしました。

福岡地区の水事情

福岡都市圏の河川は多々良川をはじめとする数多くの2級河川はありますが、いずれも流域面積、流量ともに小さく、これまで筑後川からの広域利水、域内のダム建設をはじめ水資源の開発にも積極的に取り組み安定給水の確保に努めてきました。

福岡都市圏は21世紀を迎え都市化の進展や人口の増加が予想される基礎となる水道水の安定した給水はさらに重要度を増してくると考えられることから、需要に見合う新規水源の確保が急務となっています。

海水淡水化施設の必要性

福岡地区の水事情を踏まえ、頻発する湧水への対応、また流域外の筑後川水系に多くの水を依存する福岡都市圏の自助努力の一環として、海水淡水化施設が建設されました。

海水淡水化センターとは

取水施設には、新技術の「浸透取水方式」を採用し、玄界灘沖合640mの海底に埋設した取水管



施設完成までの過程を聞く

視察を終えて

今回の視察では、淡水化処理後の水道水と一般的な水道水の飲み比べをしましたが、どちらも美味しく、ろ過処理の技術のすごさを



中央監視室を見学

から海水を取り入れます。次に、UF膜ろ過装置などを通して淡水化プラントへ運ばれた海水が真水へと淡水化され、生産水となって導水されます。淡水化の方法には、処理プロセスが簡単で、しかも経済的な方法として「逆浸透法」のシステムを導入しました。この方法は、水は通すが塩分は通さない「半透膜」を使用して海水を淡水化するものです。

痛感しました。須恵町では、緩速ろ過方式で浄水処理されていますが、あたり前に蛇口をひねれば出る水道水も、それぞれの浄水処理施設で従事されている職員皆さんの努力や創意工夫で作られ、安心して口にできていることを実感しました。



半透膜の模型を使っでの説明

進む防災対策、備えは十分か

例年災害が頻発するこの時期に、須恵町役場設備と備蓄品について調査を行いました。須恵町は、防災減災に関してさまざまな設備を有しています。議会として、導入時に説明を受けるものの、その後の状況について総合的に調査することが少ないので、今回両委員会合同で調査確認を行いました。

調査箇所は

- ◆庁舎内
 - ・災害対策室
 - ・防災無線放送室
 - ・非常用電源装置
- ◆防災センター
 - ・1F 災害対策備品
 - ・2F 食料、救援物資

防災無線に係る庁舎外の機器類は、モニター画像を使用している調査でした。すでに防災無線はデジタル化されていますが、使用状況、災害情報や町内危険箇所の一

視察を終えて

今回の調査を通して、須恵町の防災減災対策は、必要な機器・備品等の設備が更新され整備が進んでいるようです。ただし、使うのは人ですから、日頃の訓練などを活かして手際よく使用・展開できることが大事になると思います。施設・備品の整備に力を注ぐことと並行して、われわれ議員は、日頃から地域の訓練に参加し、取扱いに慣れていくことが、須恵町を守る議員として求められることだと思います。



災害対策室のモニターなどを確認



防災無線放送室の説明を受ける



防災センターの災害対策備品を確認

合同 委員会レポート

令和4年7月25日